

■5月15日

ボーイング787対応:日航、保有7機の改修作業終了

日航は14日、ボーイング787の運航再開に向け、保有する全7機でバッテリーシステムの改修作業を完了したと明らかにした。

全日空は計17機のうち11機で作業を終了、残りの機体は来週中に改修を終える見通し。15日には、熊本空港に駐機している787の改修を始めるという。

また、日航、全日空は改修した機体で試験飛行を順次行っているが、いずれもこれまでにバッテリーシステムに異常はない。

(47NEWS)5/14

<http://www.47news.jp/CN/201305/CN2013051401002102.html> (->

<http://www.47news.jp/CN/201305/CN2013051401002102.html>)

(日航HP)

http://www.jal.com/cms/ja/corp_00228.html (-> http://www.jal.com/cms/ja/corp_00228.html)

スターフライヤー、北九州ーグアムチャーター便、8月13往復計画

(毎日新聞によると)

スターフライヤーは10日、北九州ーグアム線でチャーター便を8月1日から運航することを明らかにした。旅行会社が企画するツアーで、8月だけで13往復を予定している。

24時間利用できる北九州空港の利点を生かし、午後7時45分に出発し、午前5時半に帰着。飛行時間約3時間半を見込む。米原慎一社長は記者会見で「利用状況が良ければ定期便にしたい」と話した。

(毎日新聞)5/11

<http://mainichi.jp/area/news/20130511ddp008020017000c.html> (->

<http://mainichi.jp/area/news/20130511ddp008020017000c.html>)

神戸空港、4月、搭乗者数、前年同月比1.7%減、主力の羽田線が低調

神戸市は4月の神戸空港の搭乗者数が、前年同月比1.7%減の18万7582人だったと発表した。前年割れは12カ月連続。平均搭乗率は60.8%だった。関西国際空港にLCCの路線開設が相次ぎ、利用者の低迷が続いている。神戸新聞が報じた。

路線別の搭乗率では、主力の羽田線が67.5%と、東日本大震災があった2011年3月以来の低さとなった。新千歳は55%、那覇は62.6%だった。

また、航空会社別では、スカイマークが搭乗者約12万人で搭乗率63.2%、全日空が約6万7千人で57.1%だった。

* 神戸市HPより

(神戸新聞)5/14

<http://www.kobe-np.co.jp/news/keizai/201305/0005988216.shtml> (-> <http://www.kobe-np.co.jp/news/keizai/201305/0005988216.shtml>)

<http://www.kobe-np.co.jp/news/keizai/201305/0005988216.shtml>)

(神戸市 HP)

http://www.city.kobe.lg.jp/life/access/airport/img/HP25_04.pdf (-> http://www.city.kobe.lg.jp/life/access/airport/img/HP25_04.pdf)

PEACH(LCC)、仙台線、就航一か月、搭乗率目標上回る

関西国際空港拠点の格安航空会社ピーチ・アビエーションが仙台空港に就航して12日で1カ月がたった。仙台発着のピーチは現在午前と夜間の1日2往復。片道4390~1万8890円で、空港使用料と支払手数料が別途必要。

ピーチ広報部によると、仙台線の搭乗率は目標だった70~75%を上回って推移。また、大型連休中は満席が相次いだ

という。

(日経)5/14

<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO54982160T10C13A5L01000/> (->
<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO54982160T10C13A5L01000/>)

外務省、ビザ発給統計、中国人へのビザ発給件数が減少

外務省が13日発表した平成24年のビザ発給統計によると、中国人へのビザ発給件数は昨年9月が約7万2千件だったのに対し、10月以降は約2万1千～2万6千件と2万件台で推移。
 毎年10～12月は落ち込むものの、22年と23年の10～12月の平均は4万9千件に上っており、政府が9月に尖閣諸島を国有化して以降続く、日中関係悪化を反映したものとみられる。

一方、24年の外国人全体への発給総数は198万6539件に上り、東日本大震災発生前の水準を回復した。震災が発生した23年(135万6246件)から約5割増加しており、22年(188万5584件)を10万955件上回った。

また、国別では中国が1位で111万2407件。以下、タイ(22万8528件)、マレーシア(11万5348件)、インドネシア(9万498件)、フィリピン(7万4424件)が続いた。

(産経ニュース)5/14

<http://sankei.jp.msn.com/politics/news/130513/plc13051321280010-n1.htm> (->
<http://sankei.jp.msn.com/politics/news/130513/plc13051321280010-n1.htm>)

(外務省 プレスリリース)5/13

http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press6_000197.html (->
http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press6_000197.html)

アジアナ航空、福島—仁川、12月までチャーター便を運航

アジアナ航空は14日、福島—ソウル間のチャーター便を7～12月に往復計44便を運航することを明らかにした。

同路線は、震災以降、定期便の運休が続いているが、これまで3回運航したチャーター便はいずれも満席だった。

金支店長は、金支店長は報道陣に対し、「福島はゴルフ客からの需要がある。毎月の運航は、両国の反応を確認する大切な手段だ」などと述べた。定期便の再開については「いまの環境では難しい」としているが、今後、チャーター便の実績を重ねて判断していく方針だという。

(日テレ)5/14

<http://news24.jp/nmn/news8655171.html> (-> <http://news24.jp/nmn/news8655171.html>)

(読売新聞)5/15

<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/fukushima/news/20130514-OYT8T01215.htm> (-> <http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/fukushima/news/20130514-OYT8T01215.htm>)

中部圏在住者、セントレア利用者、利用率—観光でも65.5%

中部財界でつくる財団法人「中部圏社会経済研究所」が14日に発表した中部空港利用の国際航空旅客についての調査によると、中部圏全体で見ると中部空港の利用率はそれほど高くないことが分かった。

朝日新聞によると、調査では国土交通省の統計を基に、地域別の利用空港を分析。関東圏では成田空港利用者が9割超、関西圏では関西空港利用者が同じく9割超となったのに対し、中部9県(愛知、岐阜、三重、静岡、富山、石川、福井、長野、滋賀)在住者で、中部空港を利用した人は観光で65.5%、ビジネスでは59.4%にとどまった。

東海3県以外では利用者が極端に減ることや、成田や関西に比べて便数が少ないことが理由とみられる。研究所は、中部9県在住者が遠方の空港に行くことで、中部空港を利用した場合に比べて交通費などで年間約76億円が余分にかかっていると試算している。

(朝日新聞)5/14

http://digital.asahi.com/articles/NGY201305140013.html?ref=comkiji_txt_end_kjid_NGY201305140013 (->
http://digital.asahi.com/articles/NGY201305140013.html?ref=comkiji_txt_end_kjid_NGY201305140013)

ボーイング787関連:ボーイング社、787の納入再開、再開1号機は全日空へ

(ロイターによると)

米航空機大手ボーイングは14日、787型機(ドリームライナー)の納入を再開したと発表した。再開後初の納入先は全日本空輸(ANA)。ボーイングは年内に納入が予定されている機体はすべて納入できる見通しとしている。787型機がバッテリー発火事故で1月に運航停止となったことを受け、同型機の納入は約4カ月間途絶えていた。

(ロイター)5/15

<http://jp.reuters.com/article/marketsNews/idJPJT834366220130514> (->
<http://jp.reuters.com/article/marketsNews/idJPJT834366220130514>)

成田空港、2013年度航空取扱量、国内線旅客数、前年度比21.7%増予想

成田国際空港会社(NAA)は14日、2013年度の航空取扱量について、発着回数が23.1万回と2012年度比8.8%増、航空旅客数は3,522万人で同5.3%増加するとの予測を発表した。オープンスカイによる航空会社の新規就航・増便や本邦LCCの通年化によって、2012年度を上回るとした。特に国内線では、過去最高をさらに更新して発着回数4.5万回(同15%増)、旅客数453万人(同21.7%増)を予測した。

(日刊航空)5/15

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0515-02.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0515-02.pdf>)

NAA、2013年3月期連結決算、2期ぶりの増収増益

成田国際空港会社(NAA)は14日、2013年3月期の連結決算を発表した。2012年度は、下期に尖閣諸島問題による中国線の需要減少で約16億円、竹島問題で約4億円、ボーイング787型機の運航停止で約1億円などの減収要因があったものの、震災からの回復、本邦LCCの新規就航などにより、発着回数が前期比13.3%増、旅客数は同15.9%増加したことから、2期ぶりの増収増益となった。

営業収益は前期比9%増収となる1,892億円、営業利益は347億円(前期比62.9%増)、経常利益は2倍増となる275億円(同109.8%増)。

当期純利益は前年の4.3倍となる153億円と過去最高を達成した。

(日刊航空)5/15

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0515-02.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0515-02.pdf>)

(NAAプレスリリース)5/14

http://www.naa.jp/jp/20130514_4.pdf (-> http://www.naa.jp/jp/20130514_4.pdf)

ボーイング787対応:エア・インディア、15日から商業運航再開

アジト・シン民間航空相は14日、エア・インディアはボーイングの787型機の運航を15日から再開することを明らかにした。

民間航空相が記者団に述べたところによると、国内線は15日、国際線は22日から運航を再開し、月末までには6機すべての飛行準備が整うという。エア・インディアは12月までにさらに8機を取得する予定。

また、インド当局はエア・インディアとボーイングの間で運航停止に伴う損失の補償交渉が進んでいることを認めた。

(ロイター)5/14

<http://jp.reuters.com/article/companyNews/idJPTK834276820130514> (->

<http://jp.reuters.com/article/companyNews/idJPTK834276820130514>)

(47news)5/14

<http://www.47news.jp/CN/201305/CN2013051401002304.html> (->

<http://www.47news.jp/CN/201305/CN2013051401002304.html>)

北京空港、4月利用実績、利用者数、前年同期比2.5%増

(China Pressによると)

北京首都国際空港を運営している、北京首都国際機場有限公司が、2013年4月の北京空港利用状況について報告した。

北京首都国際空港2013年4月の航空機乗入数は、2012年同期比3.8%増の4万6900機(回)であった。

1月—4月の累計では、2012年同期比1.5%増の18万2140機(回)となる。

また4月の利用者は、2012年同期比2.5%増の694万5000人。

1月—4月累計では、2012年同期比4.2%増加し、2689万8000人に達している。

(China Press)5/14

<http://www.chinapress.jp/pd/36371/> (-> <http://www.chinapress.jp/pd/36371/>)

ガルーダ・インドネシア航空、1-3月期、赤字幅が前年同期3倍へ

(産経bizによると)

ガルーダ・インドネシア航空の赤字が拡大している。今年1～3月期は乗客数が前年同期比20.7%増の540万人、売上高が同12.5%増の8072万ドル(約81億9600万円)だったにもかかわらず、最終損益は3370万ドルの赤字となり、赤字幅が前年同期の1072万ドルから3倍に膨らんだ。現地紙ジャカルタ・ポストが報じた。

同社によると、今年1～3月期は国内、国際線の合計便数を昨年3万5817便から4万4224便に増便したものの、1月の座席搭乗率が63.7%と前年同月比で13.7ポイント低下し、単月の赤字額が1800万ドルとなったのが響いた。増便による経費増を客数で吸収する目算が外れた格好だ。しかし、同社幹部は「2、3月に搭乗率は持ち直した」と強気で、4月以降の巻き返しに自信をみせている。

(産経biz)5/15

<http://www.sankeibiz.jp/business/news/130515/bsk1305150700009-n1.htm> (->

<http://www.sankeibiz.jp/business/news/130515/bsk1305150700009-n1.htm>)

セブ・パシフィック航空(LCC)、ドーハ乗り入れを申請

(NNA ASIAによると)

セブ・パシフィック航空はこのほど、カタールの首都ドーハへの乗り入れを民間航空委員会(CAB)に申請した。今年10月7日にはマニラとアラブ首長国連邦(UAE)ドバイを結ぶ直行便の運航開始を予定しており、中東への乗り入れ拡大を進める方針だ。14日付ビジネスワールドが伝えた。

セブ航空がCABのアルシリア専務理事宛てに送付した申請書によると、来年2月をめどに、マニラ～ドーハ間で週3便の運航開始を計画。既に同路線で週2便の乗り入れ枠を確保しているが、乗り入れ枠拡大に向けて、フィリピン航空に割り当てられている週6便のうち1便を追加で取得したい考えを示している。セブ航空の広報担当者によると、カタールで働くフィリピン人海外出稼ぎ労働者(OFW)は約20万人に上り、需要が見込まれるという。

(NNA ASIA)5/15

<http://nna.jp/free/news/20130515php006A.html> (-> <http://nna.jp/free/news/20130515php006A.html>)

エアバス、A350受注交渉、日航・全日空と協議

(bloombergによると)

欧州の航空機メーカー、エアバスは日本の2大航空会社から「A350-1000」を受注する方向で交渉していると、事情に詳しい関係者3人が明らかにした。同機は広胴型長距離旅客機市場での米ボーイングの牙城を崩すことを狙って開発された。

交渉が続いていることを理由に関係者2人が匿名を条件に語ったところによると、ANAホールディングス、日本航空 両社との協議は前進しており、日航は同機を古くなった一部ボーイング「777」の後継機として9月までに発注する可能性がある。日航はこれまでエアバス機を購入したことはないが、1人の関係者の話では最大20機を発注する見込み。

エアバスが日本の航空会社から最新鋭旅客機の受注を獲得すれば、数十年にわたりボーイングがほぼ独占していた日本市場でエアバスが勝利を刻むことになる。

(bloomberg) 5/15

<http://www.bloomberg.co.jp/news/123-MMT4IW6K50XV01.html> (-> <http://www.bloomberg.co.jp/news/123-MMT4IW6K50XV01.html>)